

【参考資料】

令和6年度 全国学力・学習状況調査 四街道市内小中学校の結果概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日・実施教科・対象学年

実施日：令和6年4月18日（木）

実施教科：小学校…国語、算数
中学校…国語、数学

対象：小学校6年児童・中学校3年生徒

3 調査の特徴

- (1) 学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
- (2) 各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

4 本市における調査結果の評価

「教科に関する調査」については正答率、質問紙調査については「児童生徒の回答の割合」を以下の基準にて評価

正答率または 児童生徒の回答の割合	表 記
80%以上	得意である、身に付いている、高い傾向にある
60%以上80%未満	概ね身に付いている、概ね理解している
60%未満	課題がある、低い傾向にある

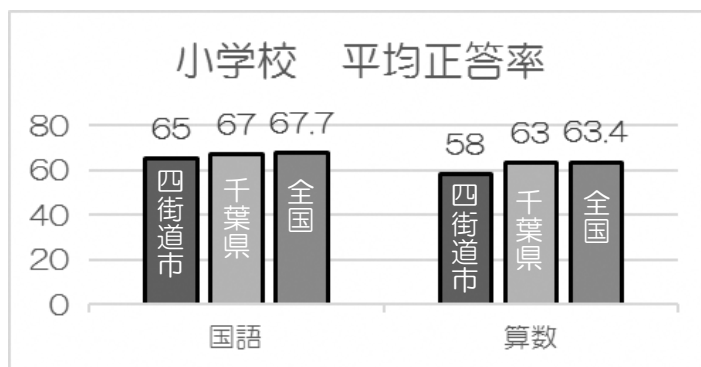
※文部科学省の実施要領には、調査結果は学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにすると記載されており、この結果をもって、小学校6年生、中学校3年生の学力をすべて網羅しているものではない。

※文部科学省からの公表・提供資料では、市町村別、都道府県別の正答率については整数値となっている。

5 教科に関する調査結果概要

(1) 小学校調査

ア 平均正答率



イ 領域、問題形式別正答率

【小学校国語】

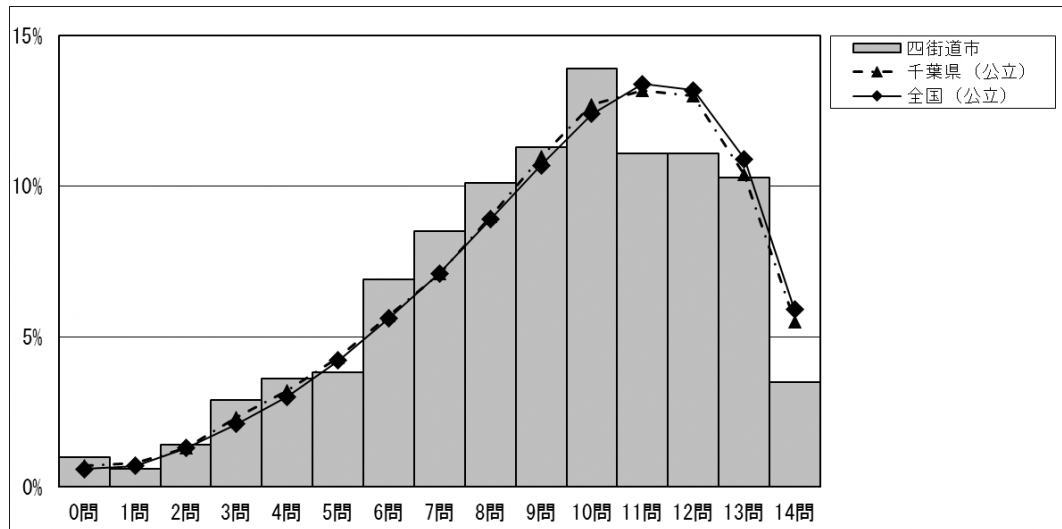
対象児童数			四街道市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)	
			799	46,939	947,364	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			四街道市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		14	65	67	67.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	60.7	63.2	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	84.6	86.8	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	77.5	76.1	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	53.5	58.7	59.8
B 書くこと		2	64.1	66.9	68.4	
C 読むこと		3	70.8	71.0	70.7	
評価の観点	知識・技能	6	67.5	69.3	69.8	
	思考・判断・表現	8	62.7	65.4	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	67.4	69.5	69.9	
	短答式	2	55.3	58.5	59.7	
	記述式	2	61.0	63.1	64.6	

【小学校算数】

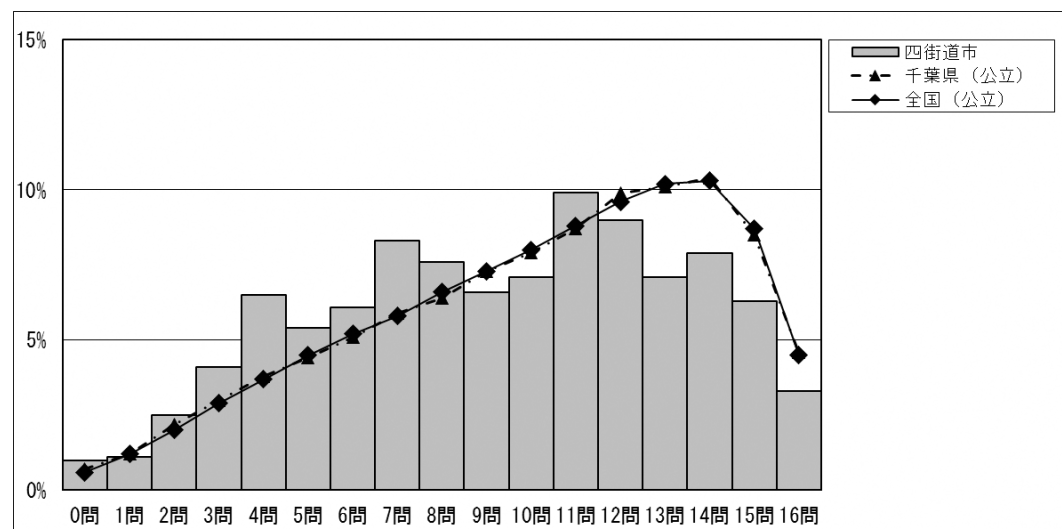
対象児童数			四街道市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)
			798	46,953	947,579
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			四街道市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	58	63	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	60.0	65.9	66.0
	B 図形	4	60.9	65.5	66.3
	C 測定	0			
	D 変化と関係	3	44.5	52.1	51.7
	D データの活用	4	57.7	61.8	61.8
評価の観点	知識・技能	9	67.6	72.9	72.8
	思考・判断・表現	7	45.3	50.8	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	70.6	75.3	75.3
	短答式	7	56.1	62.1	62.0
	記述式	4	44.9	50.0	51.0

ウ 正答数の分布

【小学校国語】



【小学校算数】



エ 評価

【小学校国語】

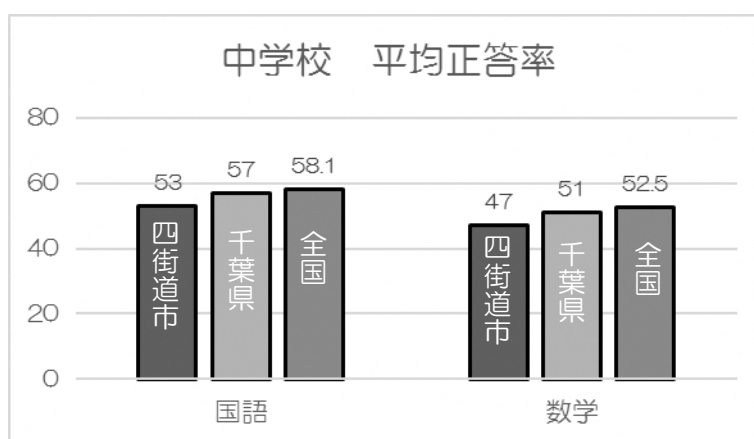
- 出題されている学習内容をおおむね理解している。
- 「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。
- 短答式の問題について、課題がある。
- 正答数の分布をみると、概ね望ましい分布となっている。

【小学校算数】

- 平均正答率でみると、低い傾向にある。
- 「変化と関係」と「データの活用」の領域に課題がある。
- 思考力・判断力・表現力に課題がある。
- 記述式の問題について、課題がある。
- 正答数の分布を見てみると、やや二極化の傾向が見られる。

(2) 中学校調査

ア 平均正答率



イ 領域、問題形式別正答率

【中学校国語】

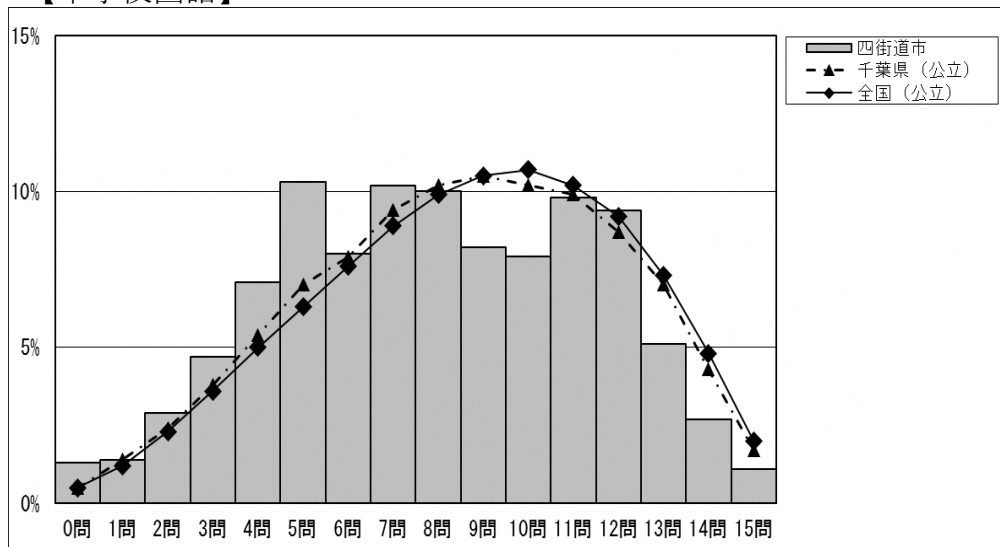
対象生徒数			四街道市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)	
			788	44,065	875,574	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			四街道市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		15	53	57	58.1	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	54.4	57.1	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	55.2	58.5	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	70.2	72.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	55.3	58.7	58.8
B 書くこと		2	57.0	63.4	65.3	
C 読むこと		4	42.6	47.3	47.9	
評価の観点	知識・技能	6	57.3	60.2	62.0	
	思考・判断・表現	9	50.0	54.7	55.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	56.5	59.8	61.0	
	短答式	3	59.7	60.9	61.8	
	記述式	3	35.3	44.2	45.5	

【中学校数学】

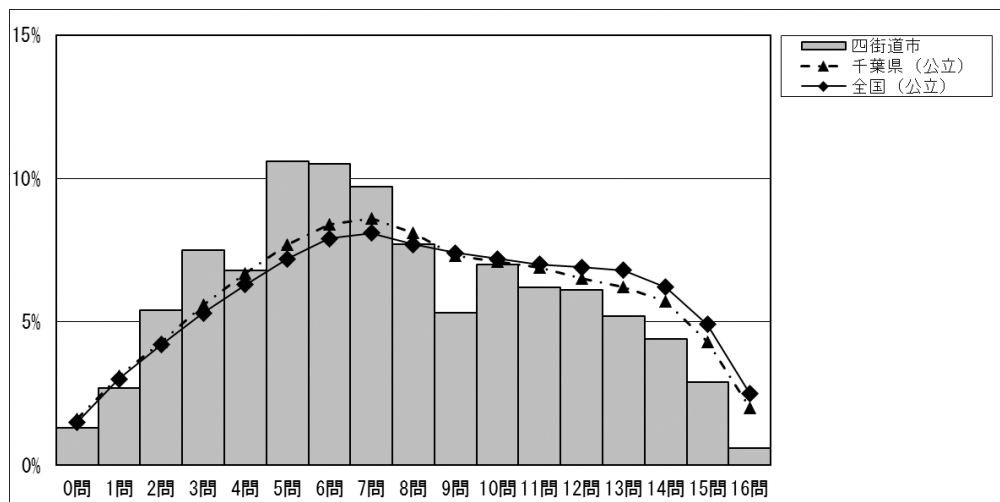
対象生徒数			四街道市教育委員会	千葉県(公立)	全国(公立)
			790	44,056	875,952
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			四街道市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	47	51	52.5
学習指導要領の領域	A 数と式	5	43.2	49.1	51.1
	B 図形	3	37.0	39.2	40.3
	C 関数	4	58.3	60.1	60.7
	D データの活用	4	47.8	53.2	55.5
評価の観点	知識・技能	11	58.3	61.7	63.1
	思考・判断・表現	5	22.1	27.6	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	53.8	56.7	58.5
	短答式	6	61.9	65.8	67.0
	記述式	5	22.1	27.6	29.3

ウ 正答数の分布

【中学校国語】



【中学校数学】



エ 分析・評価

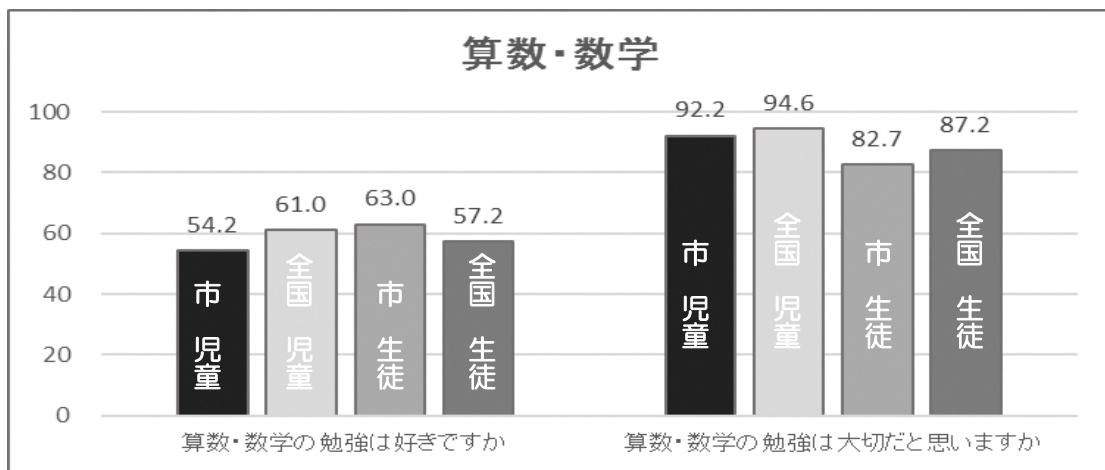
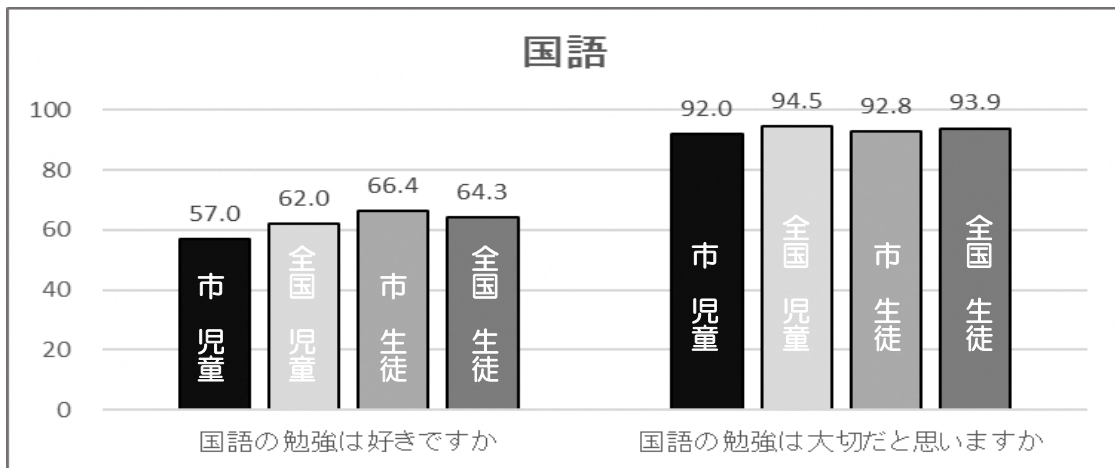
【中学校国語】

- 平均正答率で見ると、低い傾向にある。
- 思考力、判断力、表現力の中でも、特に「読むこと」の領域に課題がある。
- 記述式の問題について課題がある。
- 正答数の分布をみると、二極化の傾向が見られる。

【中学校数学】

- 平均正答率で見ると、低い傾向にある。
- 全ての領域に課題があり、特に「数と式」「図形」「データの活用」の領域でその傾向が顕著である。
- 記述式の問題について、著しく課題がある。
- 正答数の分布をみると、平均正答率より低いところにピークが見られる。

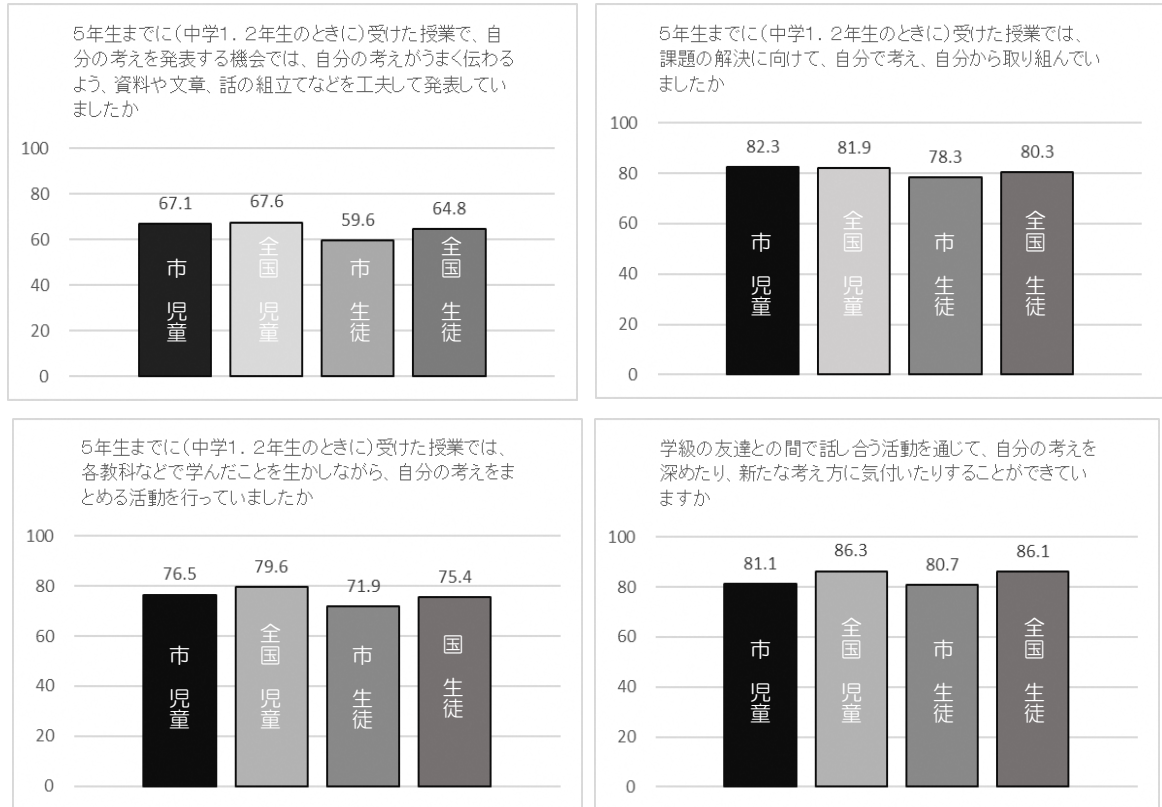
6 児童生徒質問紙調査結果概要
 (1) 学習に対する興味・関心等



【評価】

- 小学校では、国語および算数に対する興味・関心について、低い傾向にある。
- 中学校では、数学に対する興味・関心について、47%と低い傾向にあった昨年度に比べ、10ポイント以上高まっている。
- 児童生徒は、各教科の学習に対して「大切である」と考えている割合が高い傾向にあることから、今後も学ぶ必然性や意義が感じられる学習活動となるよう努めていく必要がある。

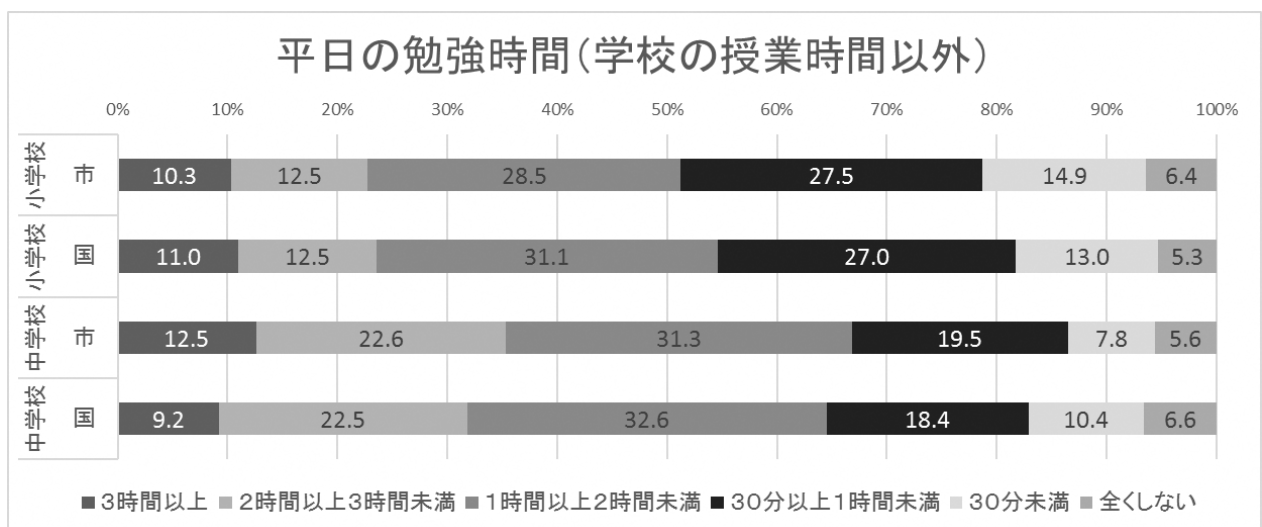
(2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

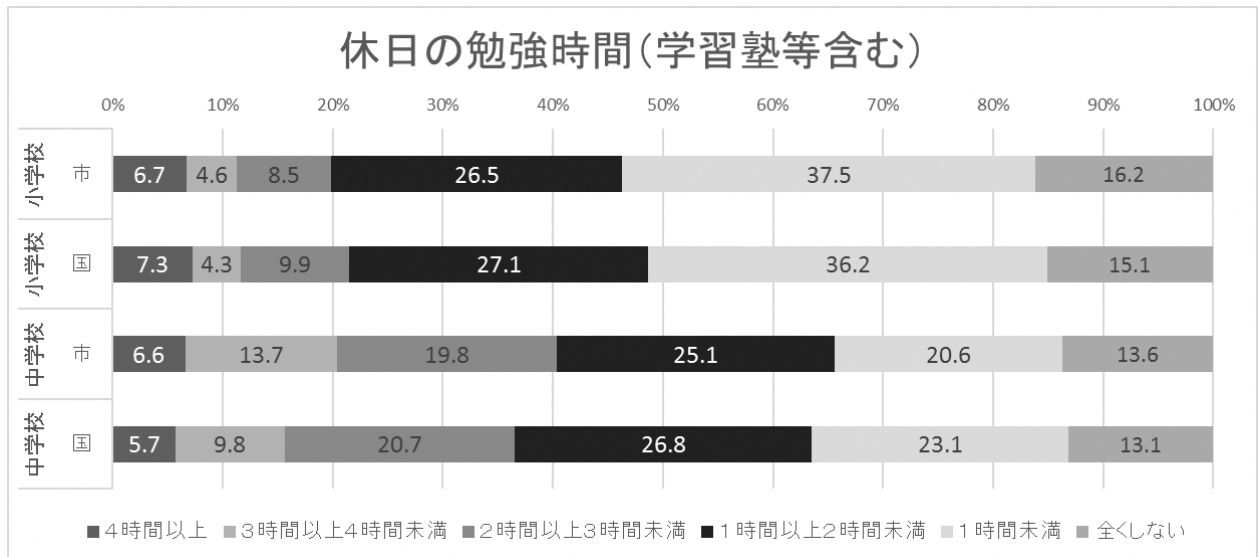


【評価】

- 各学校で主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業が展開されている。
- 授業において、児童生徒が工夫して発表や話し合い等の活動に取り組めるよう、自分の考えを発表する機会を意図的に設け、思考力、判断力、表現力等を磨く授業づくりをしていく必要がある。

(3) 学習習慣等

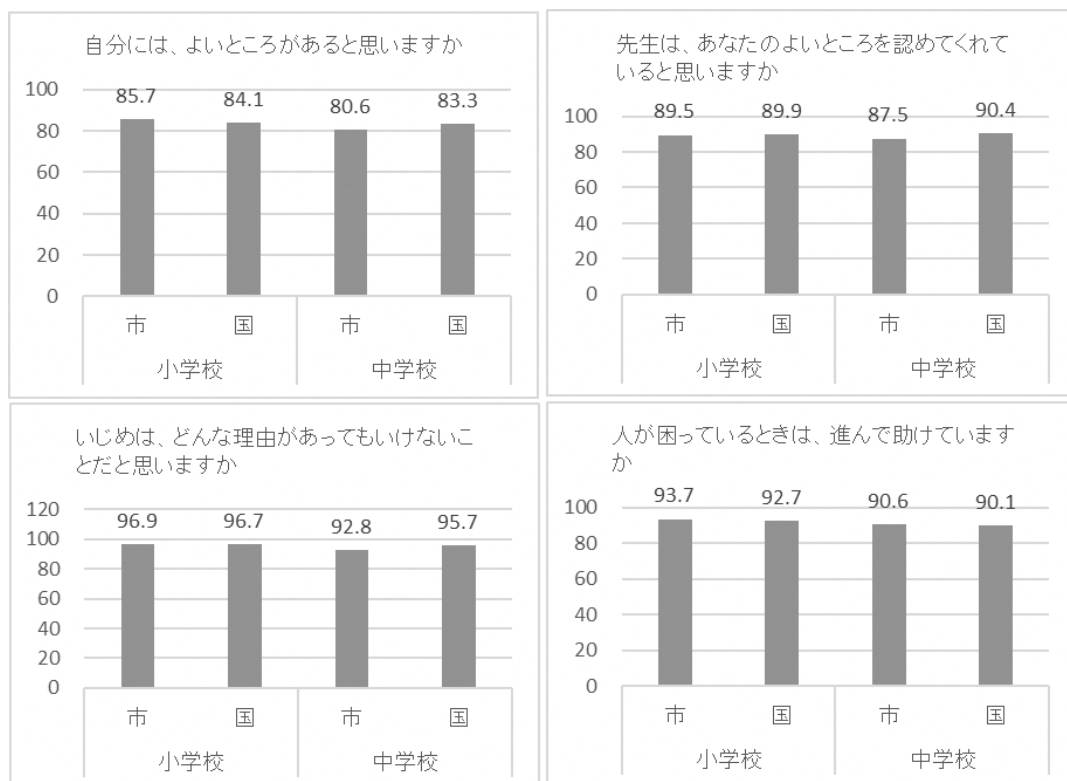




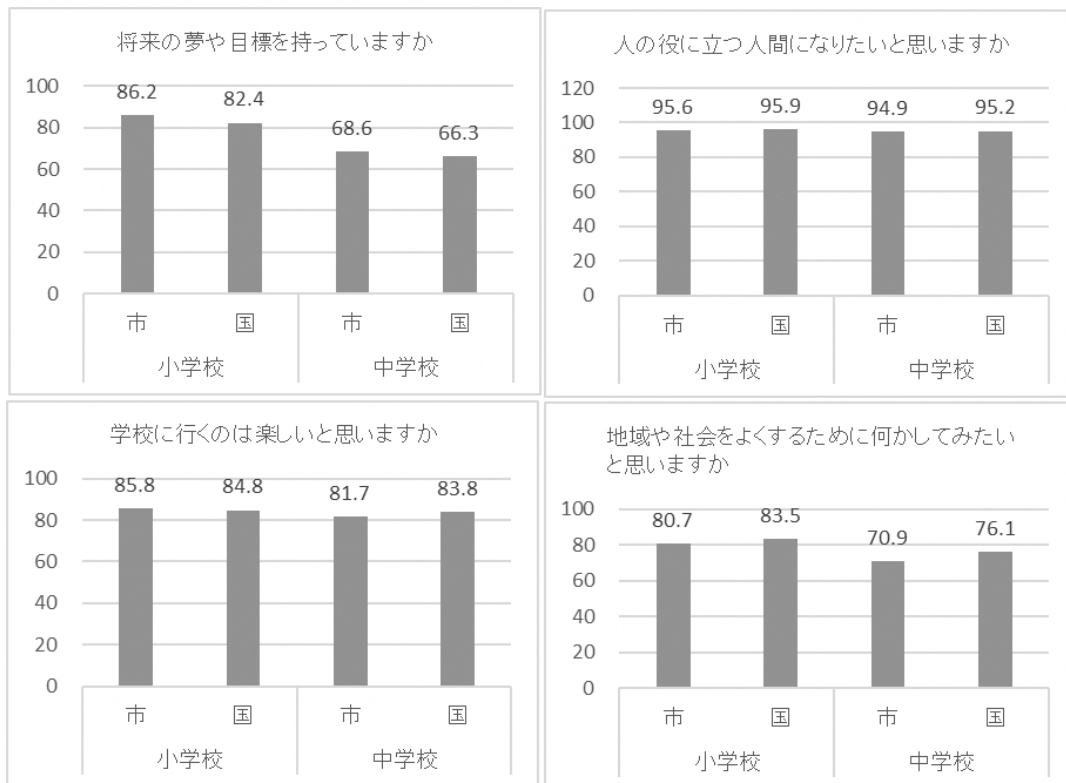
【評価】

- 小学校では、平日の授業以外の学習時間については、およそ半数の児童が1日当たり1時間以上学習に取り組んでいる。全く学習しない児童が昨年度3.3%から倍増している。休日についても全く学習しない児童が増加しており、家庭との連携の強化が必要である。
- 中学校では、平日、休日ともに1時間以上学習に取り組む生徒の割合が、60%を超えており、学習習慣が身に付いている生徒が小学校に比べて多い。

(4) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等



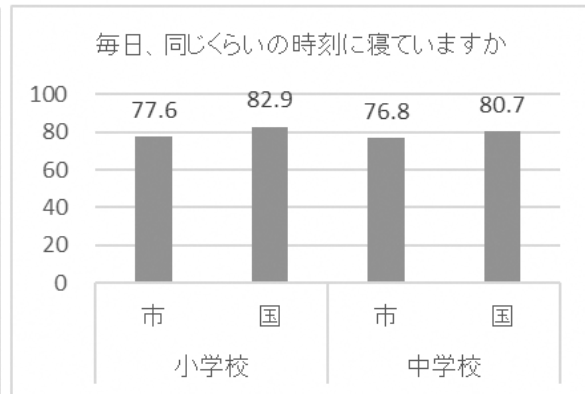
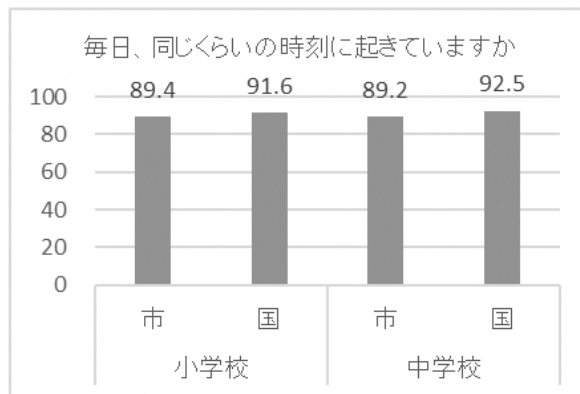
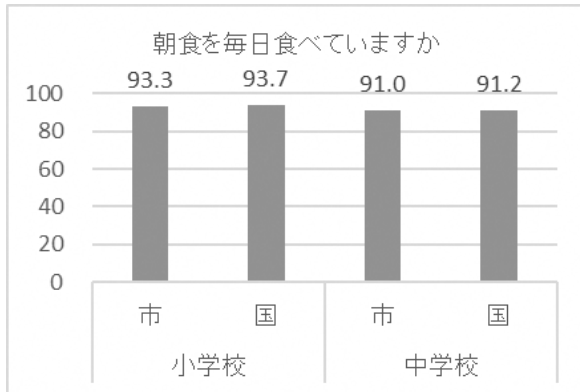
【参考資料】



【評価】

- 「自分には、よいところがある」「先生は、よいところを認めてくれている」等の問いに対しては、小中学校ともに全国と同程度で肯定的な回答の割合が高く、良好な状態である。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人が困っているときは、進んで助けている」等の問いに対しては、小中学校ともに肯定的な回答の割合が高く、規範意識が身に付いている。
- 「将来の夢や目標を持っているか」の問いに対しては、肯定的な回答の割合が小学校で高い傾向にある。
- 「人の役に立つ人間になりたいか」との問いには、小中学校ともに、肯定的な回答の割合が高く、良好な状態である。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の問いに対して、昨年度は中学校で肯定的な回答が低い傾向にあったが、今年度は昨年度58.4%と比べて10ポイント以上高くなり、小中学校ともに概ね良好な状態である。

(5) 基本的生活習慣等



【評価】

- ・朝食の喫食状況について、肯定的な回答が高い傾向にある。
- ・就寝、起床時間について、肯定的な回答が高い傾向にある。